



Title	センター活動記録、投稿規定等
Citation	北方人文研究, 15, 143-144
Issue Date	2022-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/84622
Type	bulletin (other)
File Information	15_09_Activities and guide for authors.pdf



[Instructions for use](#)

センター活動記録 (2021 年度)

2022 年 2 月 25 日

共催

- ①「第 112 回札幌学院大学言語学談話会・北
フォーラム通算第 34 回例会」白尚燁「津曲敏
郎先生に教えていただいたこと」(2021 年 12
月 1 日、参加者 17 名、オンライン開催)
- ②「第 113 回札幌学院大学言語学談話会・北
フォーラム通算第 35 回例会」高橋靖以「切替
英雄先生とアイヌ語研究」(2022 年 1 月 27
日、参加者 14 名、オンライン開催)
- ③「樺太における日ソ戦争終結と知取協定につ
いて」講師、小山内道子(翻訳家)、コメンテ
ーター、白木沢旭児(北海道大学)(2020 年 12
月 19 日、参加者 34 名、NPO 法人ロシア極東
研、サハリン・樺太史研究会の主催)

後援

- ①「縫い継がれた記憶—進藤冬華シリーズ展」
(2021 年 9 月 10 日～2022 年 2 月 28 日、文学
研究院玄関ホール横「書香の森」企画展示。
2021 年 12 月 10 日にオンラインでアーティ
ストトークを開催)

協力

- ①RJE3(北海道大学とロシア極東 5 大学との
共同教育事業)の授業科目への協力

『北方人文研究』投稿規定

1. 投稿資格
投稿者は以下のものとする。
(1)文学研究科の教員・大学院生、本センター共同研究員
(2)上記以外で編集委員会が適当と認めたもの
2. 投稿区分
投稿区分は「論文」「研究ノート」「書評・紹介」「研究会報告」「資料」の5つとする。
3. 審査
投稿された「論文」および「研究ノート」は編集委員会にて査読を行い、掲載の可否および区分を決定する。
4. 原稿枚数
原稿の種類に応じて下記の制限を設ける。
(写真・図表を含む仕上がりページ数：おおむね1ページ和文40字×40行)
論文 20ページ以内
研究ノート 10ページ以内
書評・紹介 5ページ以内
研究会報告 2ページ以内
5. 使用言語・ファイル形式
使用言語は日本語または英語とし、原稿は原則としてワープロソフト（MS-WORD推奨）で作成する。これに依りたい場合は編集委員会に相談すること。「論文」および「研究ノート」を投稿する際には英文要旨（タイトルを含めて1ページ）を提出すること。
6. 提出方法
投稿は電子形式とし、e-mailの添付ファイルで北方研究教育センター事務局に提出する。投稿された原稿・写真・図表その他は、掲載の採否にかかわらず原則として返却しない。
7. 提出先
cnh-office@let.hokudai.ac.jp
『北方人文研究』編集委員会宛
8. 電子公開
『北方人文研究』への投稿をもって、当該論文等の著者は『北方人文研究』が電子公開されることに同意したとみなす。北方研究教育センターは本誌の内容を、北海道大学学術成果コレクション（学術情報リポジトリ）等で公開する。著者が論文等を他に転載する場合には、事前に編集委員会に連絡すること。

(2019年1月改訂)

『北方人文研究』執筆要項

原稿には投稿票（別紙様式）を付ける。投稿原稿には題名のみを記し、2行空けて本文を始める（執筆者名等は記さない）。査読は匿名でおこなわれるので、本文中で執筆者が特定できるような表現は避ける。

用紙設定はA4判とし、上下左右に3.0cmのマージンを取り、和文原稿は10.5ポイント文字で1ページに40字×40行で、英文原稿は12ポイント文字で1ページに40行横書きで書く。数字は原則として算用数字を用い、記号や符号は慣用に従うこと。

原稿には使用言語による要旨（20行程度）を冒頭に付ける。

本文中に文献に言及する場合は、カッコ書きで（著者姓 発行年：頁数）のように記すこと。参考文献は論文末に一括して作成し、著者名のアルファベット順か50音順として、記載は以下にならうものとする。和文文献と欧文文献を分けるかどうかは各投稿者の専門分野の慣例にしたがう。

注は脚注とし、本文中に上付きの算用数字で通し番号を付ける。

写真・図表は執筆者によって提供された画像・図表ファイルをそのまま使用する（JPEGが望ましい）。また、写真・図表の著作権や使用許可については執筆者が責任を負うこととする。写真・図表には、番号を付して本文中の掲載場所にその旨を明記することとし、それらのキャプションは本文末尾に掲載する。画像・図表ファイルは、本文とは別ファイルとして提出する。

論文の内容には十分な倫理的配慮を要するが、考慮を要する場合には、必ず本文中に著者の責任のもとで倫理的配慮をおこなったことを明記する。

著者校正は二回を原則とし、必要最小限の修正のみをおこなう。

(2019年1月改訂)